

2. 県外進学者

(上段:人、下段:%)

		専攻分野											合計	
		人文科学	社会科学	理学	工学	農学	医・歯学	薬学	家政	教育	芸術	その他		不明
性別	男性	30	109	19	108	9	9	5	-	16	4	43	5	357
		8.4	30.5	5.3	30.3	2.5	2.5	1.4	-	4.5	1.1	12.0	1.4	100.0
性別	女性	104	87	12	15	5	33	8	32	62	24	104	5	491
		21.2	17.7	2.4	3.1	1.0	6.7	1.6	6.5	12.6	4.9	21.2	1.0	100.0
進 学 先	石川県	19	41	9	48	-	15	6	1	9	2	35	4	189
		10.1	21.7	4.8	25.4	-	7.9	3.2	0.5	4.8	1.1	18.5	2.1	100.0
	福井県	-	1	-	8	-	1	-	-	-	-	4	1	15
		-	6.7	-	53.3	-	6.7	-	-	-	-	26.7	6.7	100.0
	新潟県	1	1	2	10	3	3	-	-	14	4	7	-	45
		2.2	2.2	4.4	22.2	6.7	6.7	-	-	31.1	8.9	15.6	-	100.0
	東京都	39	51	7	16	3	5	1	9	16	6	29	-	182
		21.4	28.0	3.8	8.8	1.6	2.7	0.5	4.9	8.8	3.3	15.9	-	100.0
その他首都圏	18	24	4	15	5	4	-	1	9	7	24	1	112	
	16.1	21.4	3.6	13.4	4.5	3.6	-	0.9	8.0	6.3	21.4	0.9	100.0	
中部地域	12	32	-	8	1	4	1	13	11	2	22	2	108	
	11.1	29.6	-	7.4	0.9	3.7	0.9	12.0	10.2	1.9	20.4	1.9	100.0	
京阪神	36	34	3	8	-	4	4	6	10	5	14	1	125	
	28.8	27.2	2.4	6.4	-	3.2	3.2	4.8	8.0	4.0	11.2	0.8	100.0	
その他	9	12	6	10	2	6	1	2	9	2	12	1	72	
	12.5	16.7	8.3	13.9	2.8	8.3	1.4	2.8	12.5	2.8	16.7	1.4	100.0	
全体		134	196	31	123	14	42	13	32	78	28	147	10	848
全体		15.8	23.1	3.7	14.5	1.7	5.0	1.5	3.8	9.2	3.3	17.3	1.2	100.0

(1) 県外に進学した理由

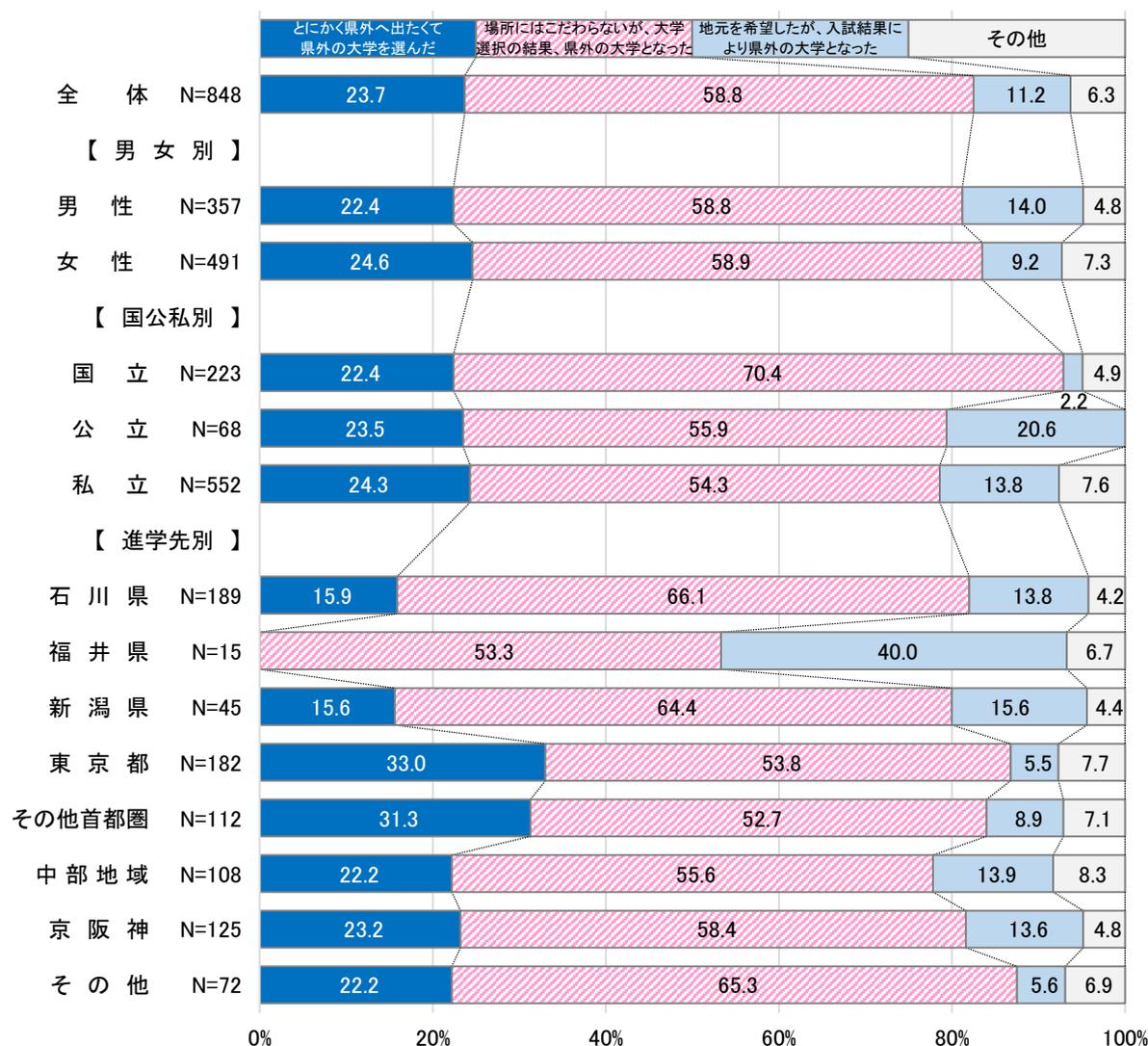
Q1. 【場所】県外に進学した理由は何ですか。

全体の約6割は、場所にはこだわらなかったが、大学選択の結果、県外の大学へ進学している

県外に進学した理由を尋ねたところ、「とにかく県外へ出たくて県外の大学を選んだ」が23.7%、「場所にはこだわらないが、大学選択の結果、県外の大学となった」が58.8%、「地元を希望したが、入試結果により県外の大学となった」が11.2%となっている。

進学先別にみると、東京都は、「とにかく県外へ出たくて県外の大学を選んだ」が33.0%と他の地域と比べて最も多くなっている。

図 2-1 富山県外に進学した理由



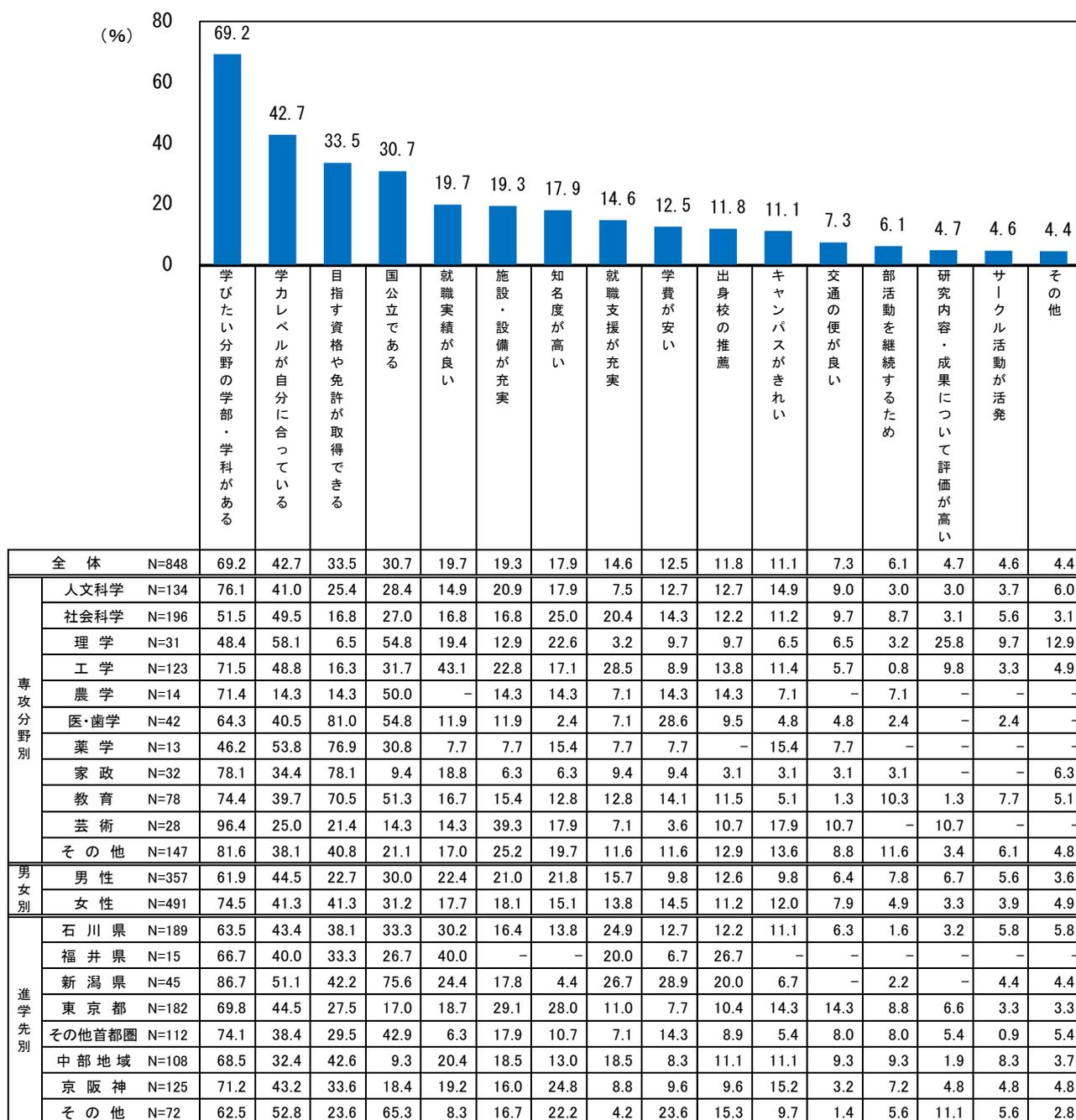
(2)現在の大学を選択した理由

Q2.【大学】現在の大学を選んだ理由は何ですか。

全体の約7割は、学びたい分野の学部・学科があることを理由に現在の大学を選んでいる

現在の大学を選択した理由を尋ねたところ、「学びたい分野の学部・学科がある」が69.2%と最も多く、次いで「学力レベルが自分に合っている」が42.7%、「目指す資格や免許が取得できる」が33.5%、「国公立である」が30.7%、「就職実績が良い」が19.7%となっている。

図 2-2 現在の大学を選択した理由 N=848 【複数回答】(該当するものすべて)



(3) 県外に出たかった理由

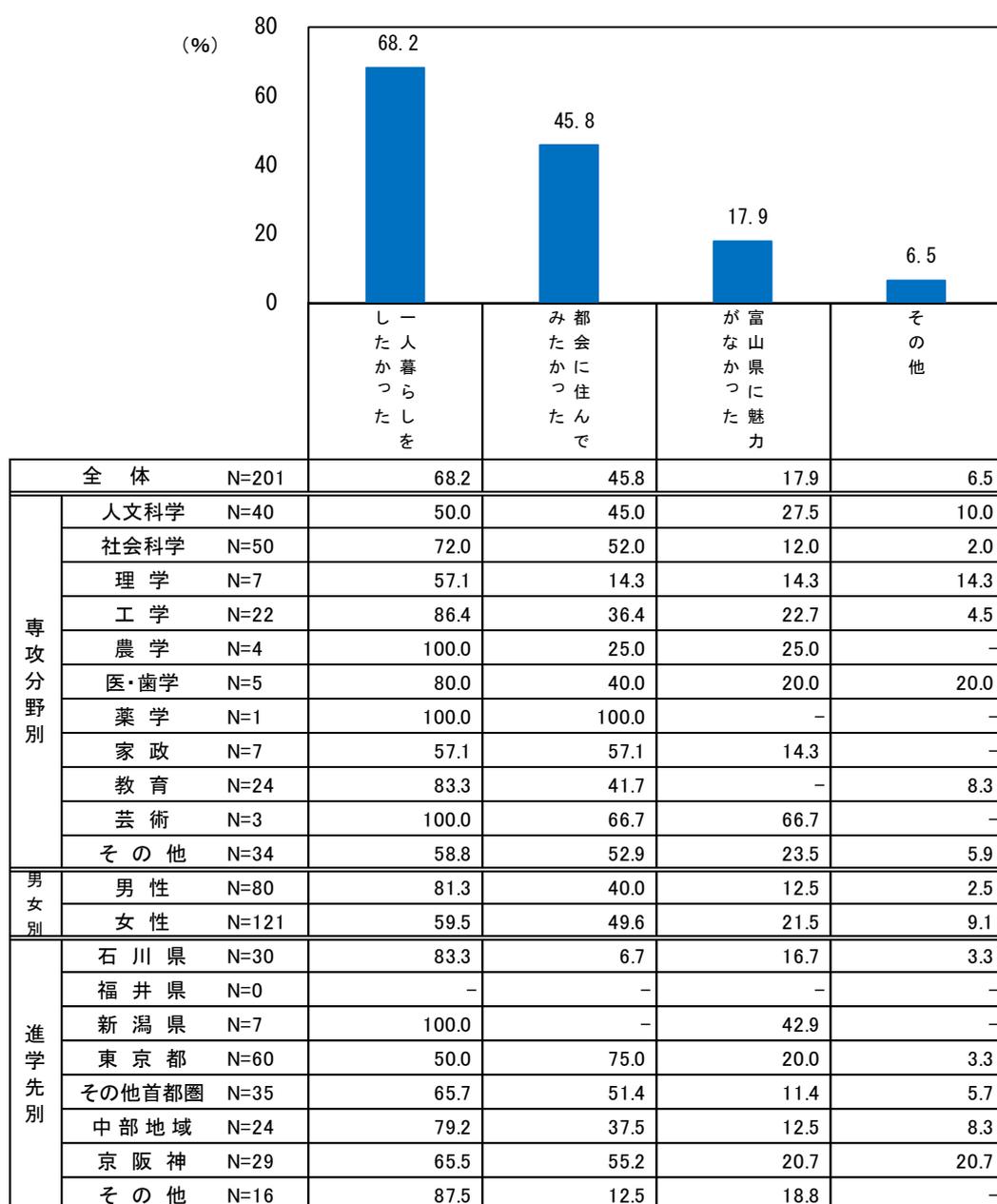
Q3. 「とにかく県外へ出たくて県外の大学を選んだ」理由は何ですか。

県外に出たかった理由は、「一人暮らしをしたかった」が約7割と最も多い

Q1 において、「とにかく県外へ出たくて県外の大学を選んだ」と回答した 201 人にその理由を尋ねたところ、「一人暮らしをしたかった」が 68.2%と最も多く、次いで「都会に住んでみたかった」が 45.8%、「富山県に魅力がなかった」が 17.9%となっている。

男女別にみると、男性は、「一人暮らしをしたかった」が 81.3%と女性に比べて 21.8 ポイント多くなっている。

図 2-3 県外に出たかった理由 N=201 【複数回答】(該当するものすべて)



(4)どのような条件が整えば富山県の大学に進学したか

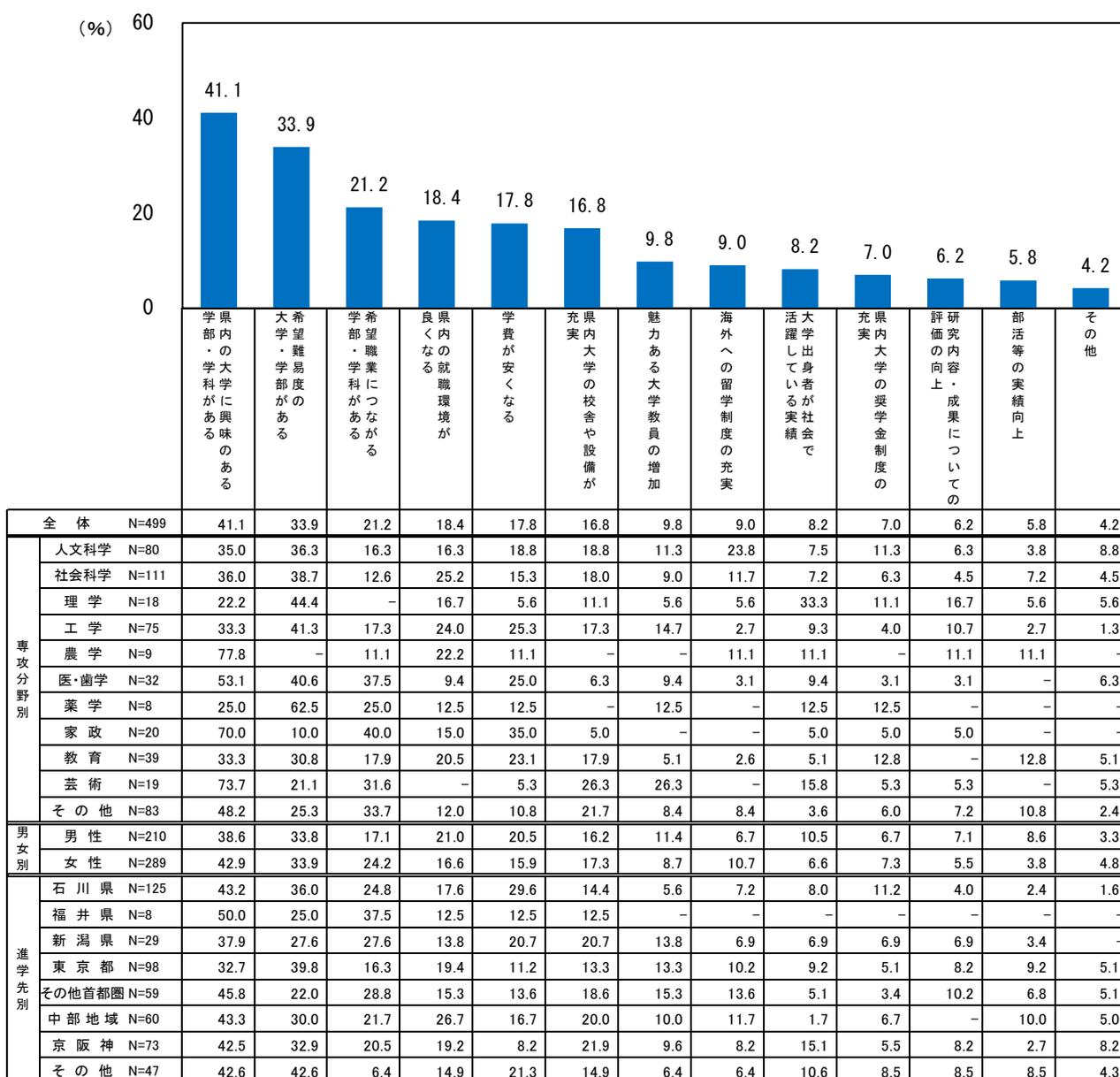
(場所にはこだわらないが、大学選択の結果、県外大学となったと回答した人)

Q4. どのような条件が整えば富山県の大学に進学しましたか。

場所にこだわらなかった学生の4割は、興味のある学部・学科があれば富山県の大学に進学した

Q1において、「場所にはこだわらないが、大学選択の結果、県外の大学となった」と回答した499人にどのような条件が整えば富山県の大学に進学したかを尋ねたところ、「県内の大学に興味のある学部・学科がある」が41.1%と最も多く、次いで「希望難易度の大学・学部がある」が33.9%、「希望職業につながる学部・学科がある」が21.2%、「県内の就職環境が良くなる」が18.4%、「学費が安くなる」が17.8%となっている。

図 2-4 どのような条件が整えば富山県の大学に進学したか N=499 【複数回答】(該当するもの3つまで)



(5) 大学選択の際に参考にした意見

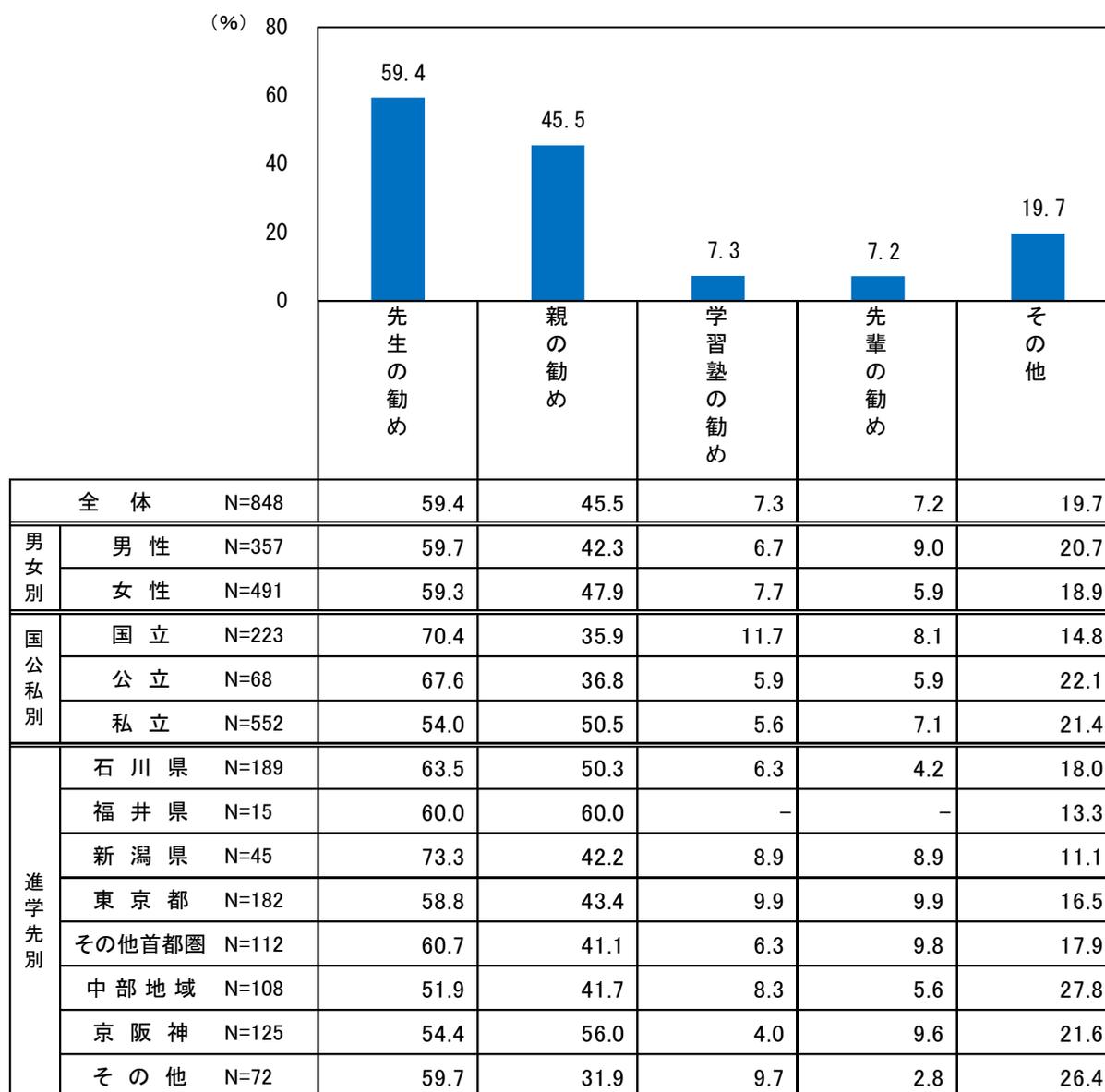
Q5. 大学を選ぶ際、誰の意見を参考にしましたか。

大学選択の際に参考にした意見は、「先生の勧め」が約6割と最も多い

大学選択の際に参考にした意見を尋ねたところ、「先生の勧め」が59.4%と最も多く、次いで「親の勧め」が45.5%、「学習塾の勧め」が7.3%となっている。「その他」としては、「誰の意見も参考にしなかった」、「自分自身で決めた」等の回答が多く見受けられた。

国公私別にみると、「先生の勧め」が国公立は6割以上、私立は5割と最も多く、私立では次いで「親の勧め」が50.5%と国公立に比べ多くなっている。

図 2-5 大学選択の際に参考にした意見 N=848 【複数回答】(該当するものすべて)



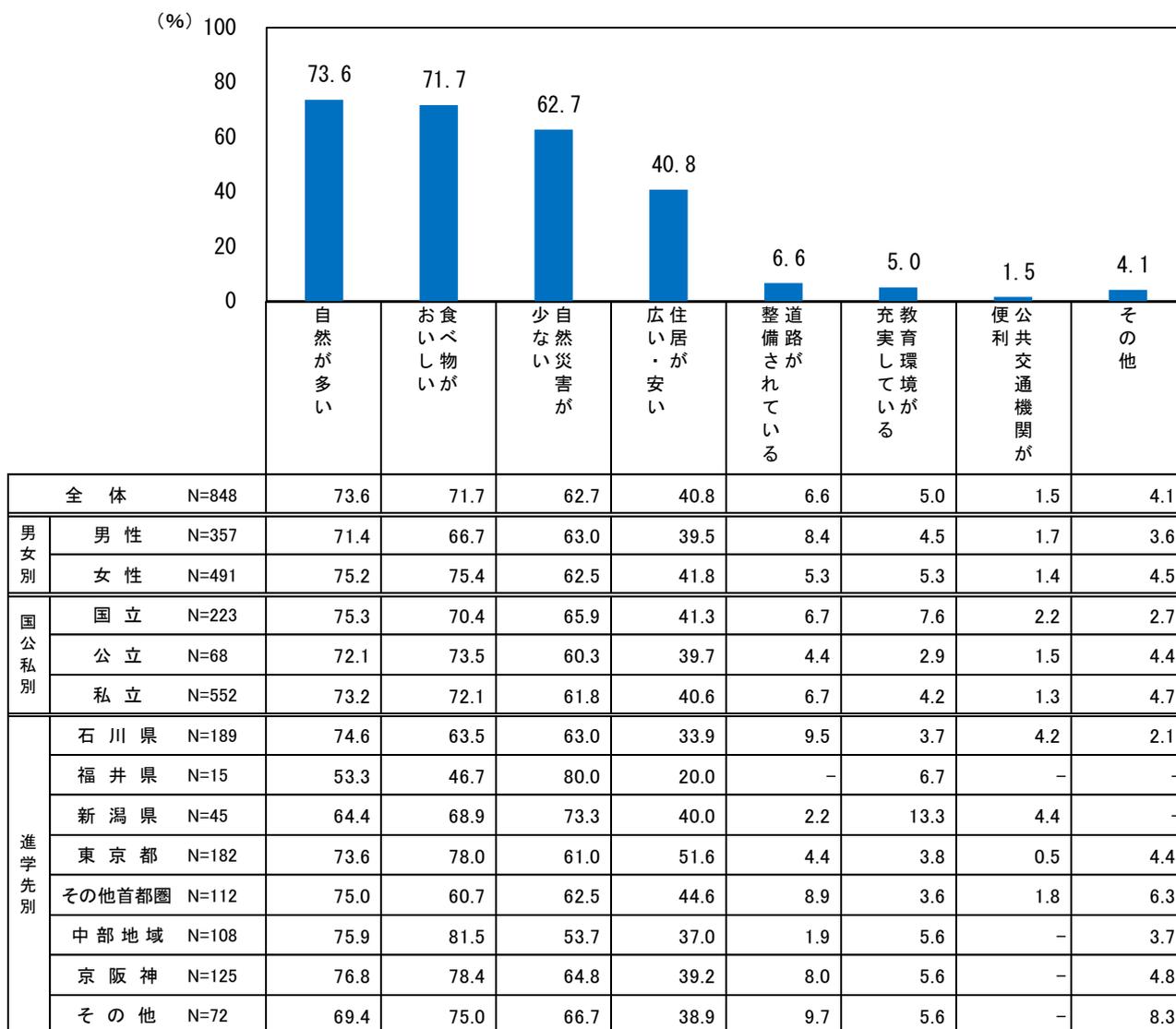
(6)富山県の評価(いいところ)

Q6. 富山県のいいところは何ですか。

富山県の長所は、「自然が多い」、「食べ物おいしい」が7割となっている

富山県のいいところを尋ねたところ、「自然が多い」が73.6%と最も多く、次いで「食べ物おいしい」が71.7%、「自然災害が少ない」が62.7%となっている。

図 2-6 富山県のいいところ N=848 【複数回答】(該当するもの3つまで)



(7) 富山県の評価(暮らしで不便な点)

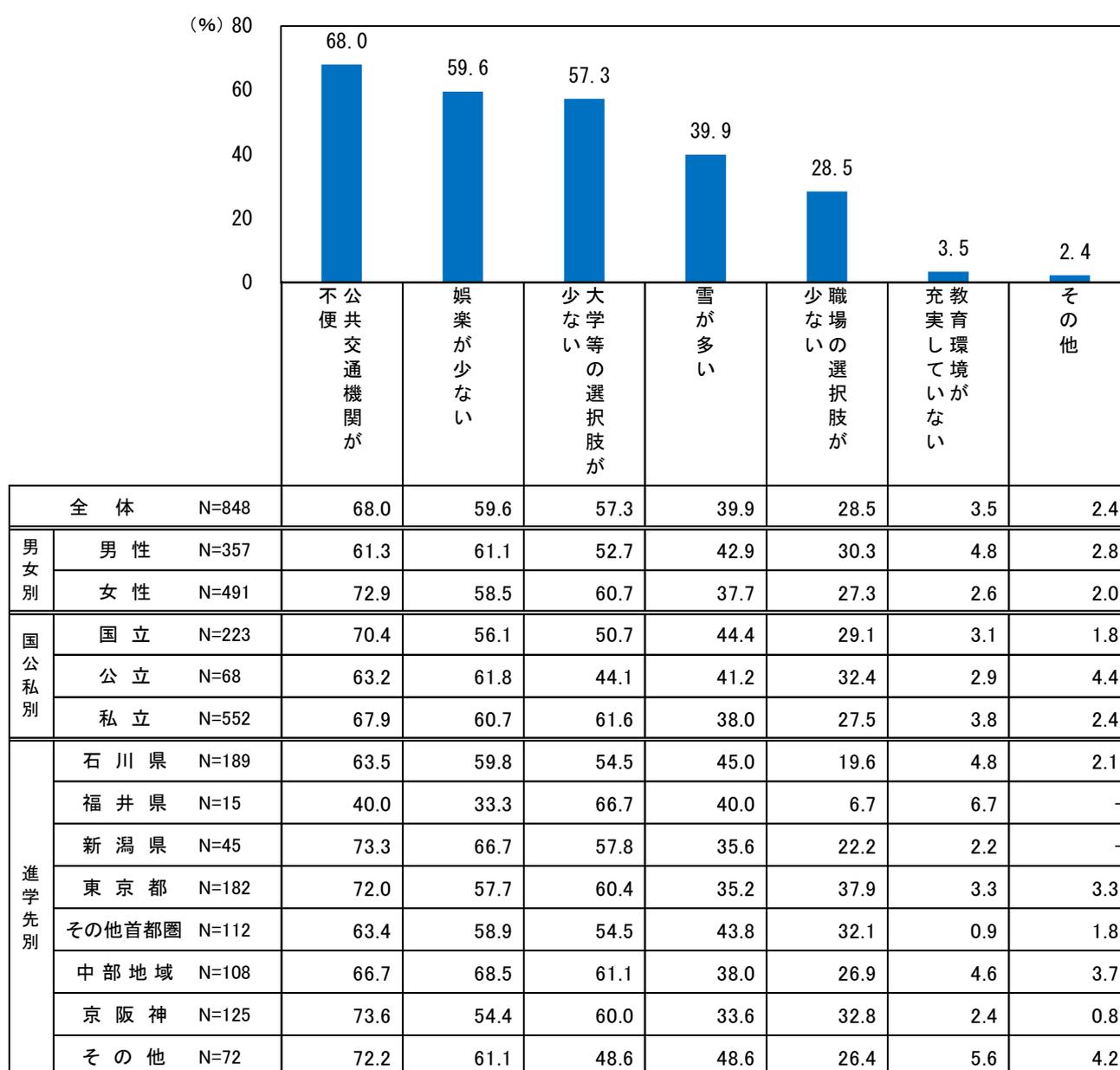
Q7. 富山県での暮らしで不便な点は何ですか。

富山県での暮らしで不便な点は、「公共交通機関が不便」が約7割と最も多い

富山県での暮らしで不便な点を尋ねたところ、「公共交通機関が不便」が68.0%と最も多く、次いで「娯楽が少ない」が59.6%、「大学等の選択肢が少ない」が57.3%となっている。

男女別にみると、女性は、「公共交通機関が不便」が72.9%と男性に比べて11.6ポイント多くなっている。

図 2-7 富山県の暮らしで不便な点 N=848 【複数回答】(該当するもの3つまで)



(8) 希望する働き方

Q8. 働き方に関するAとBの意見のうち、あなた自身の意見に近いのはどちらですか。

①雇用形態の希望

A：正社員にこだわりたい

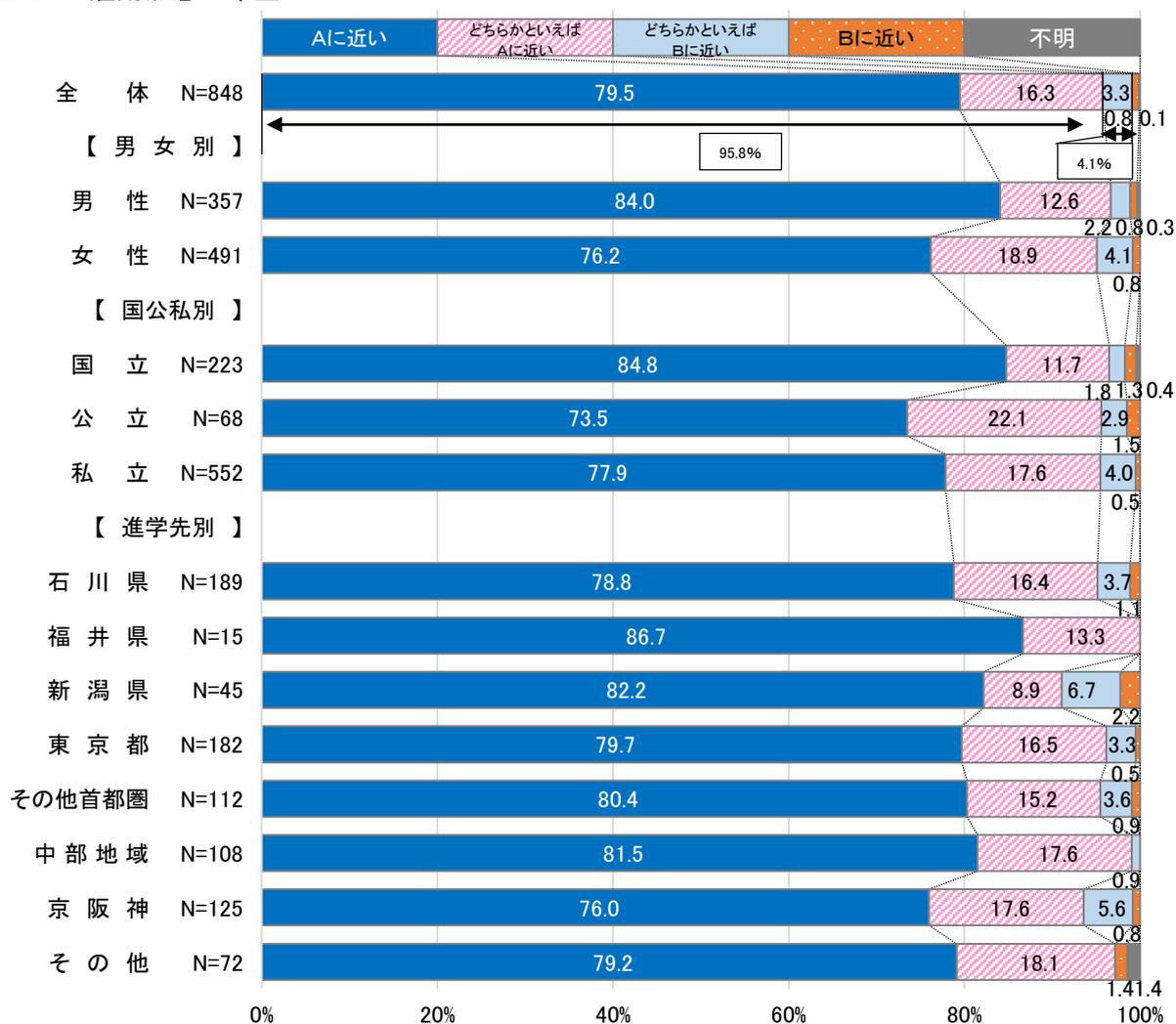
B：正社員にこだわらず、非正規やフリーターでもよい

全体の9割強は「正社員にこだわりたい」という考え方に近い

雇用形態について、「A:正社員にこだわりたい」、「B:正社員にこだわらず、非正規やフリーターでもよい」のどちらの意見に近いかを尋ねたところ、「Aに近い」が79.5%、「どちらかといえばAに近い」が16.3%となっており、合わせて95.8%となっている。

国公私別にみると、国立は、「Aに近い」が84.8%と他に比べて多くなっている。

図 2-8-1 雇用形態の希望



② 転職に対する考え方

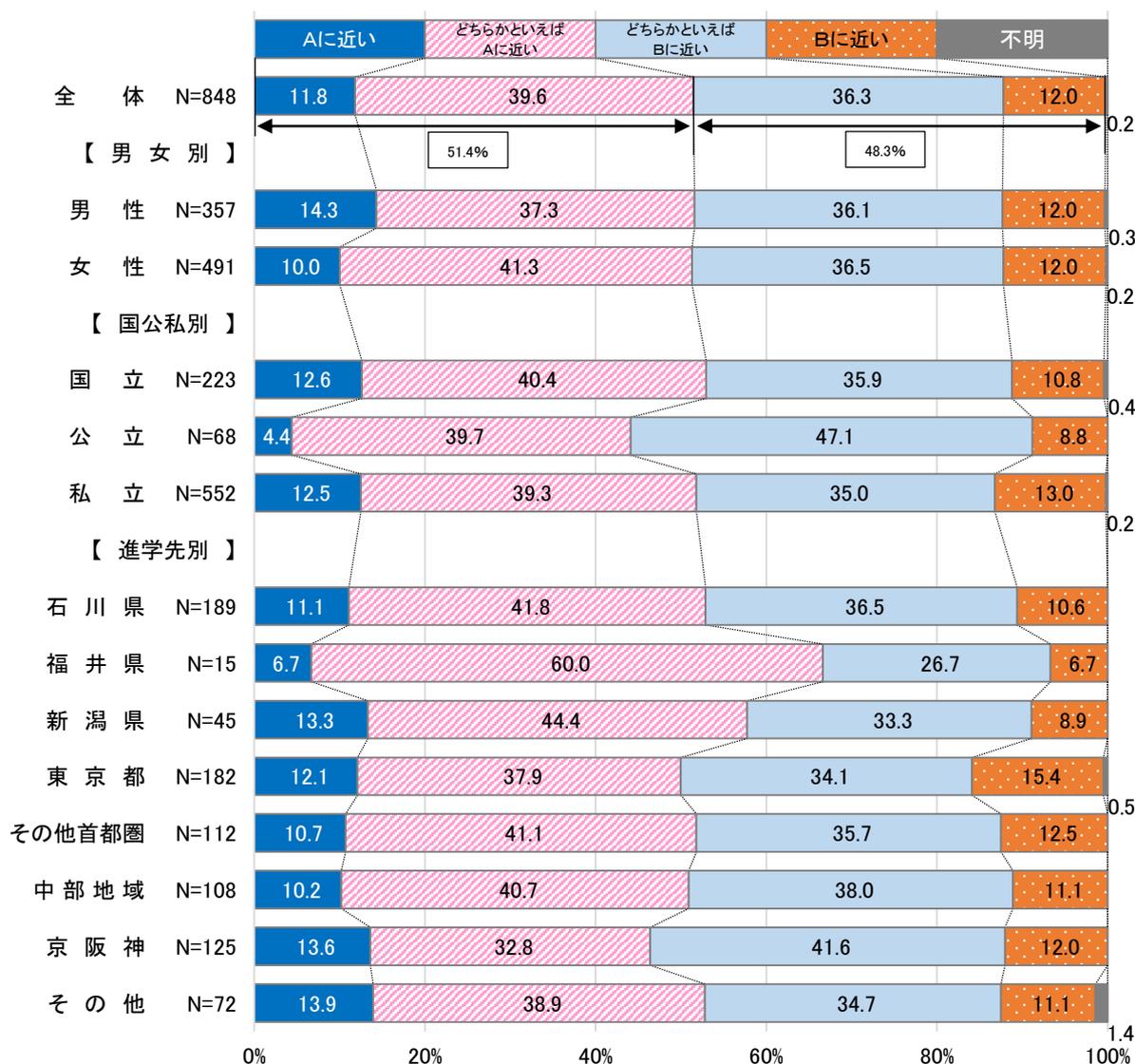
A：自分に向かないと思っても、一つの会社で働き続けたい

B：自分に向かないと思ったら、転職するつもりだ

全体の5割が「自分に向かないと思っても、一つの会社で働き続けたい」という考え方に近い

転職に対する考え方について、「A:自分に向かないと思っても、一つの会社で働き続けたい」、「B:自分に向かないと思ったら、転職するつもりだ」のどちらの意見に近いかを尋ねたところ、「どちらかといえばAに近い」「Aに近い」の計が51.4%、「どちらかといえばBに近い」「Bに近い」の計が48.3%となっている。

図 2-8-2 転職に対する考え方



③収入と余暇のバランス

A：余暇を犠牲にしても、経済的に豊かな生活をしたい

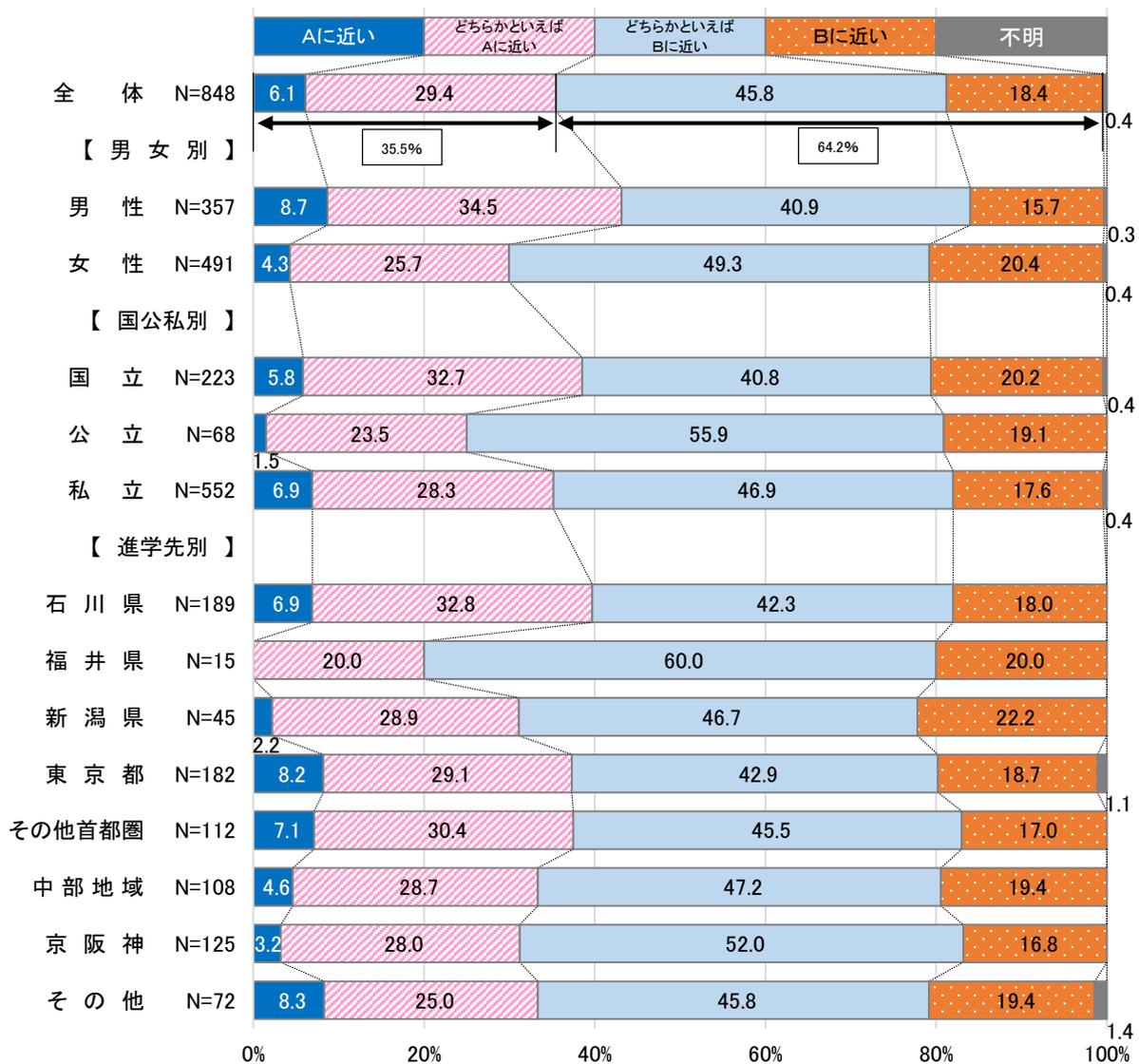
B：ほどほどの収入でも余暇を楽しむ生活をしたい

女性の約7割は、「ほどほどの収入でも余暇を楽しむ生活をしたい」という考え方に近い

収入と余暇のバランスについて、「A:余暇を犠牲にしても、経済的に豊かな生活をしたい」、「B:ほどほどの収入でも余暇を楽しむ生活をしたい」のどちらの意見に近いかを尋ねたところ、「Aに近い」が6.1%、「どちらかといえばAに近い」が29.4%、「どちらかといえばBに近い」が45.8%、「Bに近い」が18.4%となっている。

男女別にみると、女性は、「どちらかといえばBに近い」「Bに近い」の計が69.7%と男性に比べて13.1ポイント多くなっている。

図 2-8-3 収入と余暇のバランス



④仕事と家庭・趣味のバランス

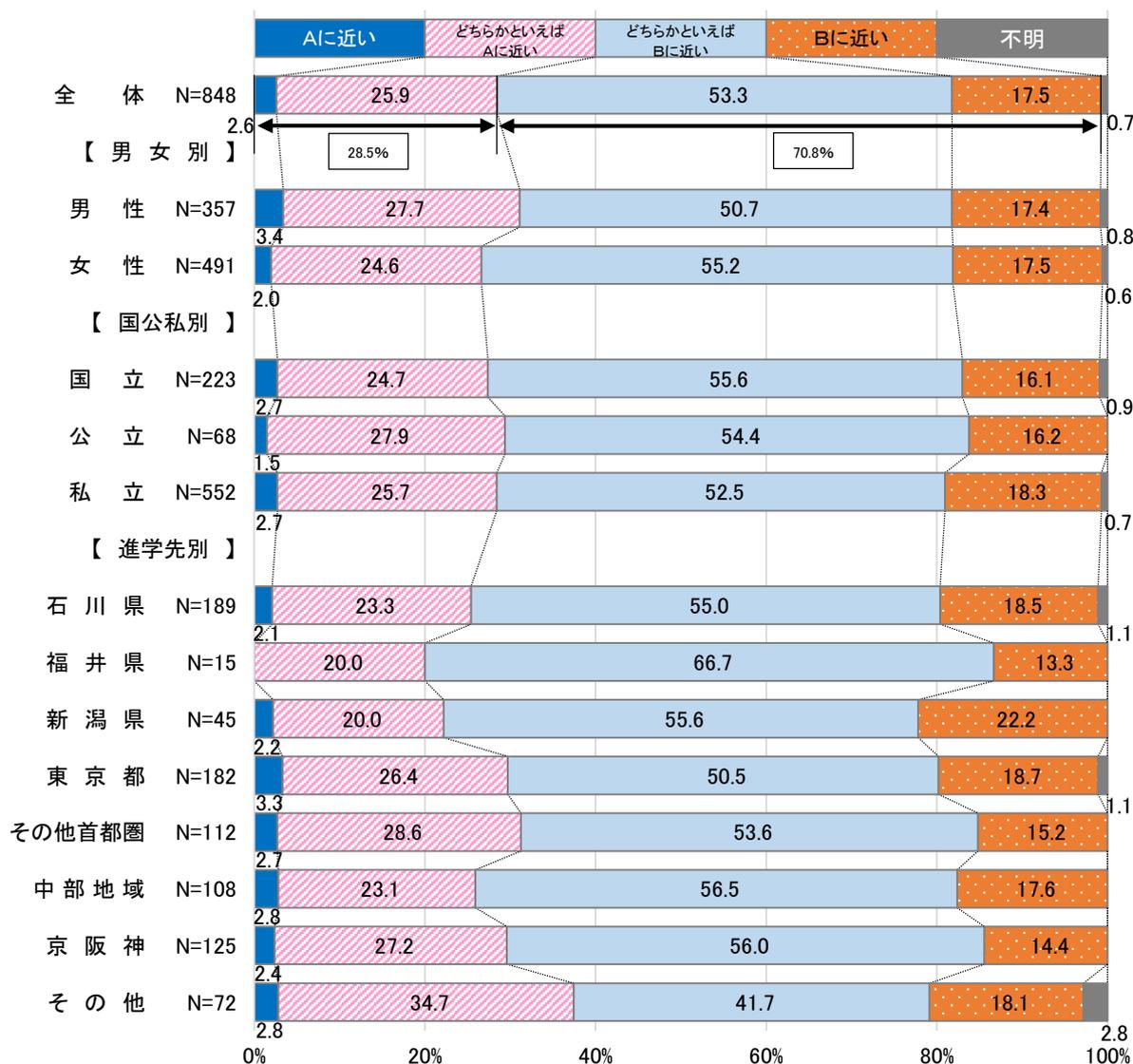
- A：家庭や趣味よりも、仕事を優先に生活したい
- B：仕事よりも、家庭や趣味を優先した生活をしたい

全体の7割は、「仕事よりも、家庭や趣味を優先した生活をしたい」という考え方に近い

仕事と家庭・趣味のバランスについて、「A:家庭や趣味よりも、仕事を優先に生活したい」、「B:仕事よりも、家庭や趣味を優先した生活をしたい」のどちらの意見に近いかを尋ねたところ、「どちらかといえばBに近い」が53.3%、「Bに近い」が17.5%となっており、合わせて70.8%となっている。

男女別にみると、男性は、「どちらかといえばAに近い」「Aに近い」の計が31.1%と女性に比べて4.5ポイント多くなっている。

図 2-8-4 仕事と家庭・趣味のバランス



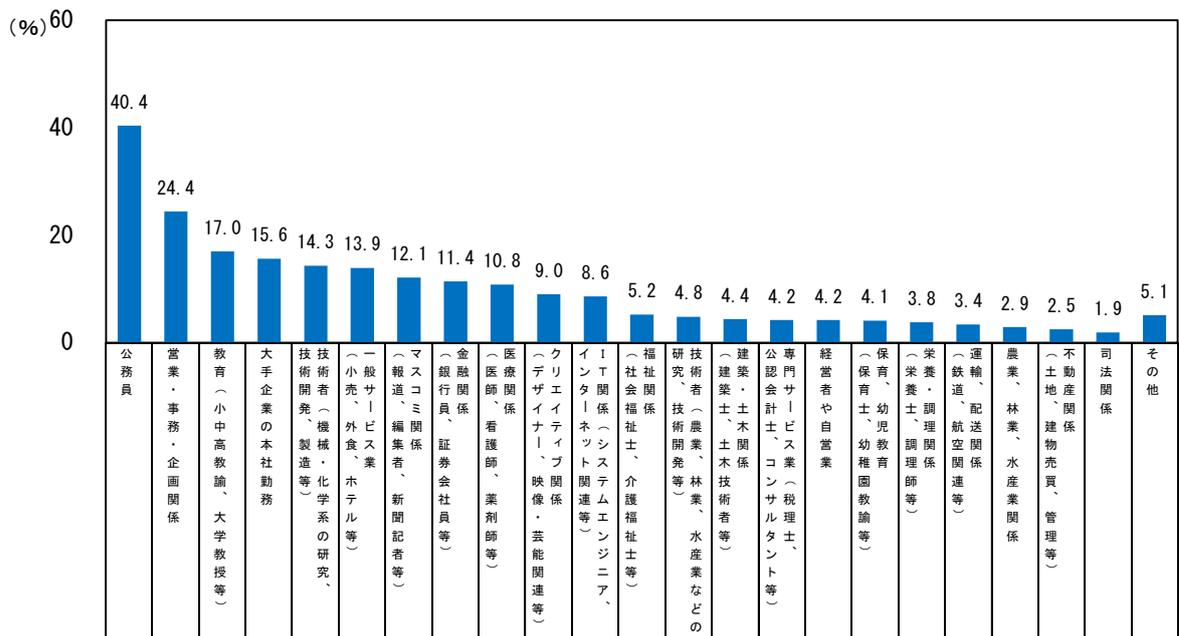
(9) 卒業後に就きたい仕事(職業・職種)

Q9. 希望する職業・職種を選んでください。

希望する職業・職種は、「公務員」が4割と最も多い

希望する職業・職種を尋ねたところ、「公務員」が40.4%と最も多く、次いで「営業・事務・企画関係」が24.4%、「教育(小中高教諭、大学教授等)」が17.0%、「大手企業の本社勤務」が15.6%、「技術者(機械・化学系の研究、技術開発、製造等)」が14.3%となっている。

図 2-9 卒業後に就きたい仕事(職業・職種) N=848 【複数回答】(該当するものすべて)



		全体 N=848	40.4	24.4	17.0	15.6	14.3	13.9	12.1	11.4	10.8	9.0	8.6	5.2	4.8	4.4	4.2	4.2	4.1	3.8	3.4	2.9	2.5	1.9	5.1
専攻分野別	人文科学 N=134	49.3	38.1	21.6	17.9	1.5	34.3	22.4	12.7	1.5	9.7	3.7	3.0	0.7	-	2.2	6.0	2.2	2.2	6.7	2.2	1.5	2.2	7.5	
	社会科学 N=196	46.9	44.4	5.6	22.4	2.0	15.8	17.9	26.5	-	5.1	2.6	4.1	-	-	13.3	6.6	1.0	-	5.6	2.6	6.1	6.6	3.6	
	理学 N=31	48.4	9.7	29.0	19.4	51.6	3.2	-	9.7	9.7	-	29.0	3.2	12.9	6.5	-	6.5	-	-	-	-	-	-	-	-
	工学 N=123	33.3	8.9	5.7	15.4	66.7	2.4	0.8	4.1	4.1	6.5	29.3	4.1	11.4	22.8	1.6	3.3	-	1.6	4.9	-	2.4	-	0.8	
	農学 N=14	71.4	14.3	7.1	7.1	14.3	-	-	-	-	-	7.1	-	7.1	14.3	-	-	-	-	-	-	35.7	-	-	-
	医・歯学 N=42	19.0	-	14.3	4.8	-	-	-	2.4	92.9	2.4	-	7.1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	薬学 N=13	15.4	-	7.7	15.4	23.1	-	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	家政 N=32	28.1	18.8	12.5	9.4	3.1	15.6	6.3	12.5	9.4	18.8	3.1	-	3.1	6.3	-	-	-	-	59.4	-	3.1	3.1	-	3.1
	教育 N=78	44.9	12.8	65.4	2.6	-	5.1	7.7	3.8	-	3.8	2.6	1.3	-	-	1.3	2.6	28.2	1.3	1.3	-	-	-	-	5.1
	芸術 N=28	17.9	21.4	7.1	7.1	-	10.7	17.9	-	-	82.1	-	-	3.6	-	-	-	-	3.6	-	-	-	-	-	7.1
その他 N=147	38.8	19.7	15.6	17.7	6.8	15.6	16.3	7.5	18.4	6.8	8.2	13.6	6.8	2.0	2.7	4.1	4.8	4.8	1.4	1.4	6.8	2.0	-	11.6	
男女別	男性 N=357	43.7	19.6	15.4	18.5	28.6	8.4	9.2	11.2	7.0	7.0	15.4	2.8	7.3	8.4	4.8	7.6	1.7	1.4	5.0	3.9	3.4	3.1	2.8	
	女性 N=491	38.1	27.9	18.1	13.4	3.9	17.9	14.3	11.6	13.6	10.4	3.7	6.9	3.1	1.4	3.9	1.8	5.9	5.5	2.2	2.2	1.8	1.0	6.7	
進学先別	石川県 N=189	30.2	23.3	12.2	11.6	25.4	14.3	7.4	10.1	15.9	10.1	13.8	6.3	3.7	6.9	3.2	3.2	4.2	1.6	3.7	1.6	3.2	2.1	3.2	
	福井県 N=15	46.7	20.0	6.7	13.3	40.0	6.7	-	6.7	6.7	6.7	13.3	-	20.0	6.7	-	-	-	26.7	-	6.7	-	-	-	
	新潟県 N=45	37.8	11.1	31.1	4.4	13.3	2.2	4.4	2.2	15.6	6.7	6.7	2.2	13.3	11.1	2.2	4.4	4.4	-	2.2	-	-	-	-	4.4
	東京都 N=182	45.6	26.4	17.0	23.1	11.0	13.7	20.9	15.4	7.1	11.5	6.6	4.9	3.8	2.2	4.4	3.3	4.9	2.2	3.8	2.7	2.7	2.2	6.6	
	その他首都圏 N=112	50.9	27.7	21.4	15.2	12.5	8.9	15.2	6.3	7.1	10.7	9.8	3.6	4.5	4.5	3.6	5.4	1.8	0.9	6.3	3.6	0.9	1.8	-	
	中部地域 N=108	39.8	25.9	17.6	14.8	7.4	19.4	10.2	14.8	13.0	6.5	5.6	6.5	2.8	3.7	3.7	3.7	4.6	10.2	3.7	1.9	4.6	0.9	4.6	
	京阪神 N=125	36.0	27.2	16.8	14.4	6.4	18.4	11.2	12.8	8.8	7.2	6.4	5.6	1.6	3.2	6.4	5.6	5.6	4.8	1.6	2.4	2.4	2.4	8.8	
その他 N=72	47.2	19.4	15.3	18.1	15.3	13.9	9.7	12.5	11.1	5.6	6.9	5.6	11.1	1.4	6.9	6.9	2.8	4.2	1.4	9.7	1.4	2.8	9.7		

(10) 卒業後に就きたい仕事(事業形態・規模)

Q10. 希望する就職先の事業形態・規模について、現在の考えに最も近いものを選んでください。

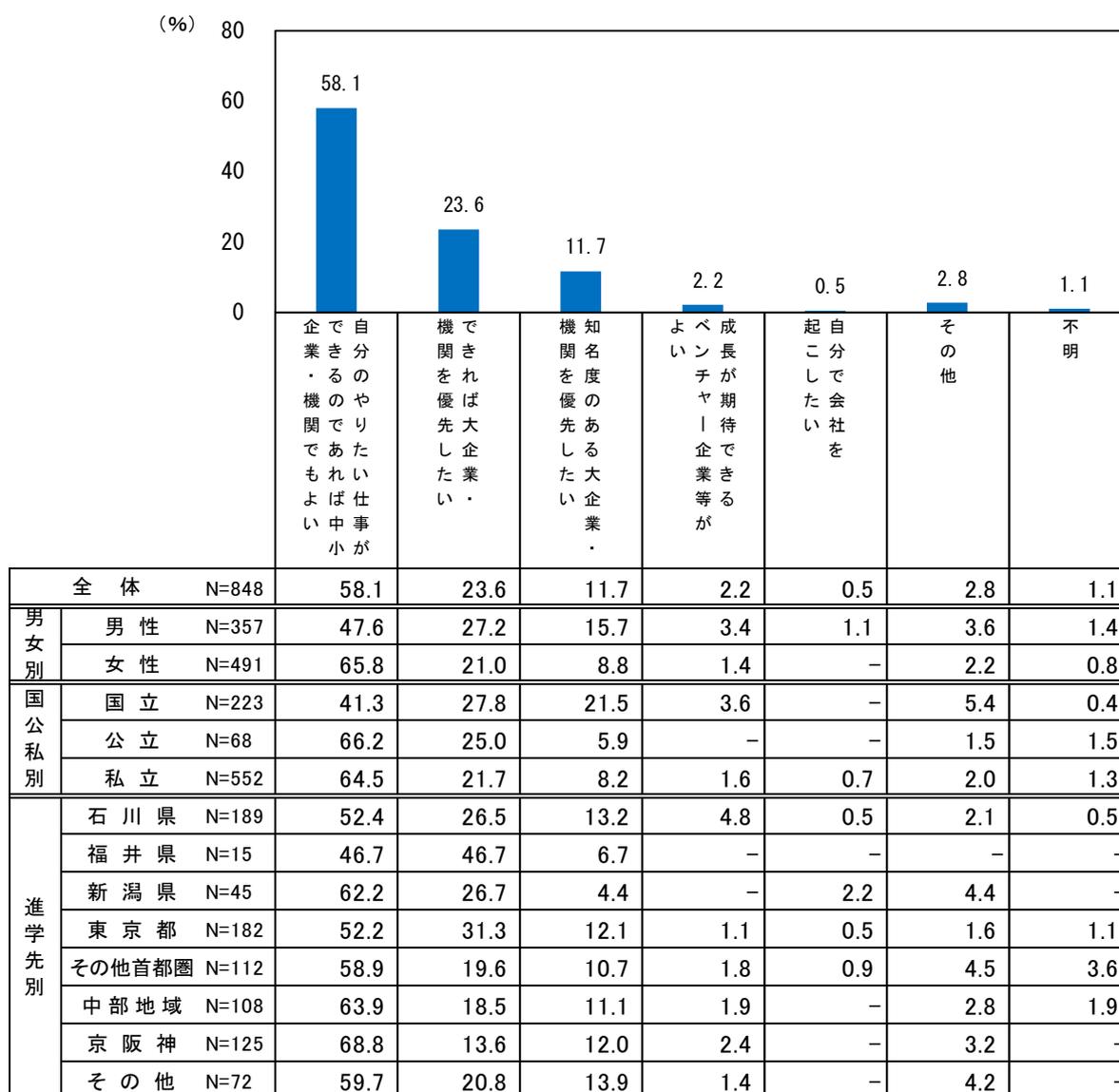
国立大学進学者は、大企業・機関への就職希望が他に比べて強い傾向にある

希望する就職先の事業形態・規模を尋ねたところ、「自分のやりたい仕事ができるのであれば中小企業・機関でもよい」が 58.1%と最も多く、次いで「できれば大企業・機関を優先したい」が 23.6%、「知名度のある大企業・機関を優先したい」が 11.7%となっている。

男女別にみると、女性は、「自分のやりたい仕事ができるのであれば中小企業・機関でもよい」が 65.8%となっており、男性より 18.2 ポイント多くなっている。

国公私別にみると、国立は、他に比べて大企業・機関への就職希望が強い傾向にある。

図 2-10 卒業後に就きたい仕事(事業形態・規模) N=848



(11) 卒業後の就職地の希望

Q11. 希望する就職地についてあてはまるものを選んでください。

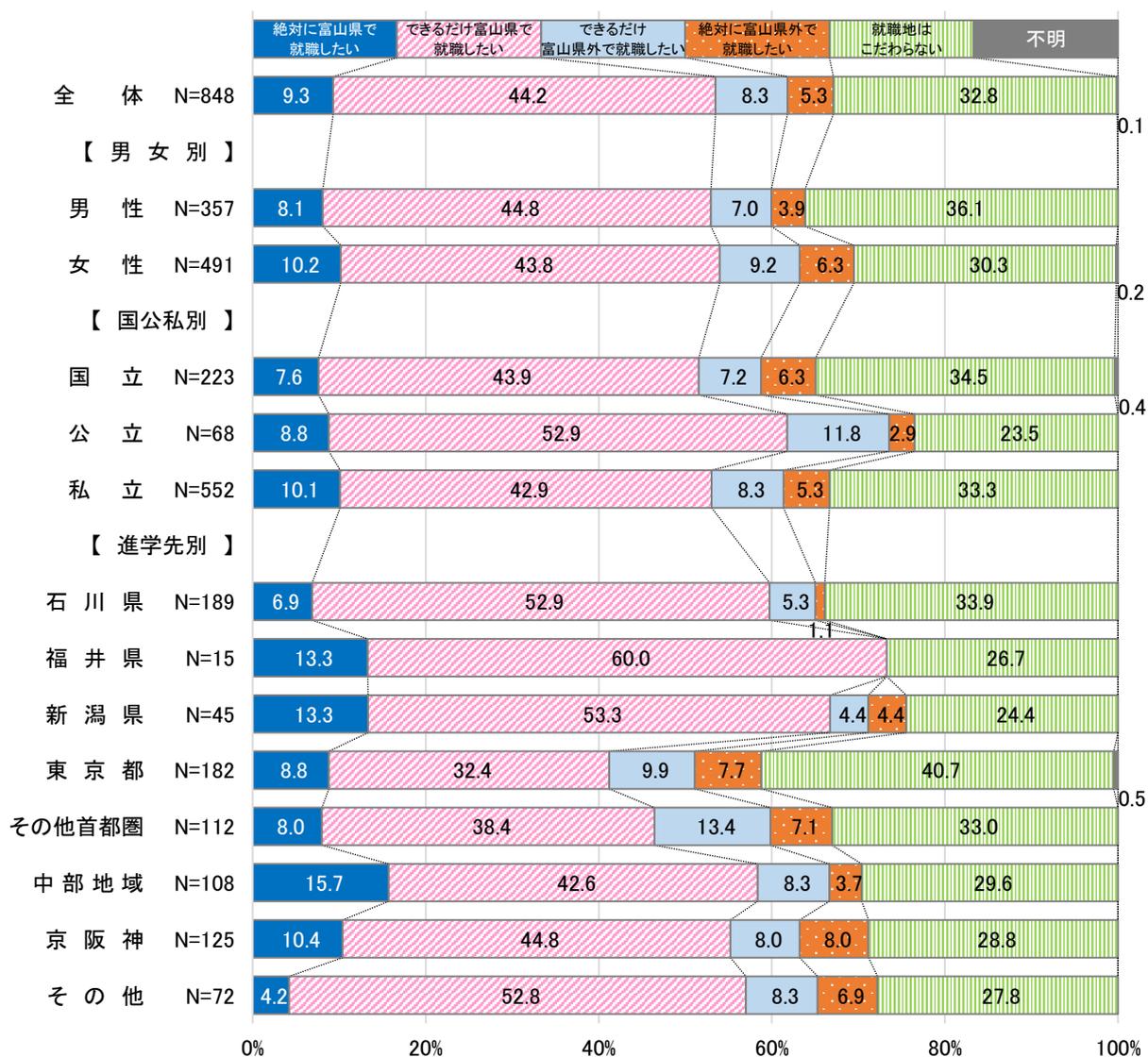
全体の5割強は、富山県で就職したいと考えている

希望する就職地を尋ねたところ、「絶対に富山県で就職したい」が9.3%、「できるだけ富山県で就職したい」が44.2%と合わせて53.5%となっている。

男女別にみると、女性は、「できるだけ富山県外で就職したい」「絶対に富山県外で就職したい」の計が15.5%と男性に比べて4.6ポイント多くなっている。

進学先別にみると、東京都は「絶対に富山県で就職したい」「できるだけ富山県で就職したい」の計が41.2%と他の地域に比べて少なくなっている。

図 2-11 卒業後の就職地の希望



(12) 富山県での就職を希望する理由

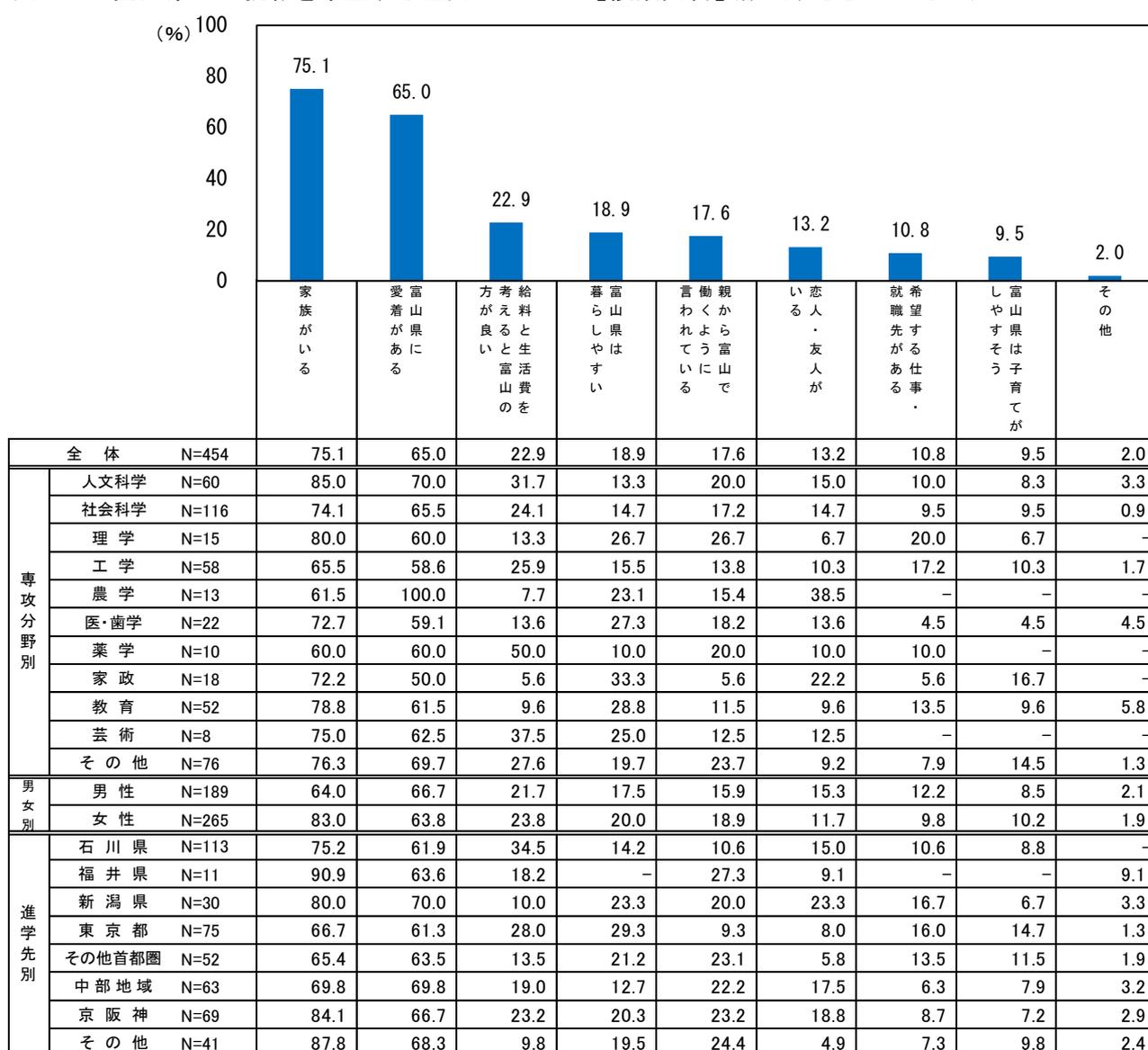
Q12. 富山県での就職を希望する理由は何ですか。

富山県での就職希望者の7割強は、「家族がいる」を理由としている

Q11 において、「絶対に富山県で就職したい」、「できるだけ富山県で就職したい」と回答した 454 人に富山県での就職を希望する理由を尋ねたところ、「家族がいる」が 75.1%と最も多く、次いで「富山県に愛着がある」が 65.0%、「給料と生活費を考えると富山の方が良い」が 22.9%となっている。

男女別にみると、女性は、「家族がいる」が 83.0%と男性に比べて 19.0 ポイント多くなっている。

図 2-12 富山県での就職を希望する理由 N=454 【複数回答】(該当するもの3つまで)



○「富山県は暮らしやすい(具体的に)」への記入意見で主なもの

- ・自然が多い
- ・自然災害が少ない
- ・人が優しい
- ・食べ物や水がおいしい
- ・治安がよい
- ・住み慣れている

(13) 県外就職を希望する理由

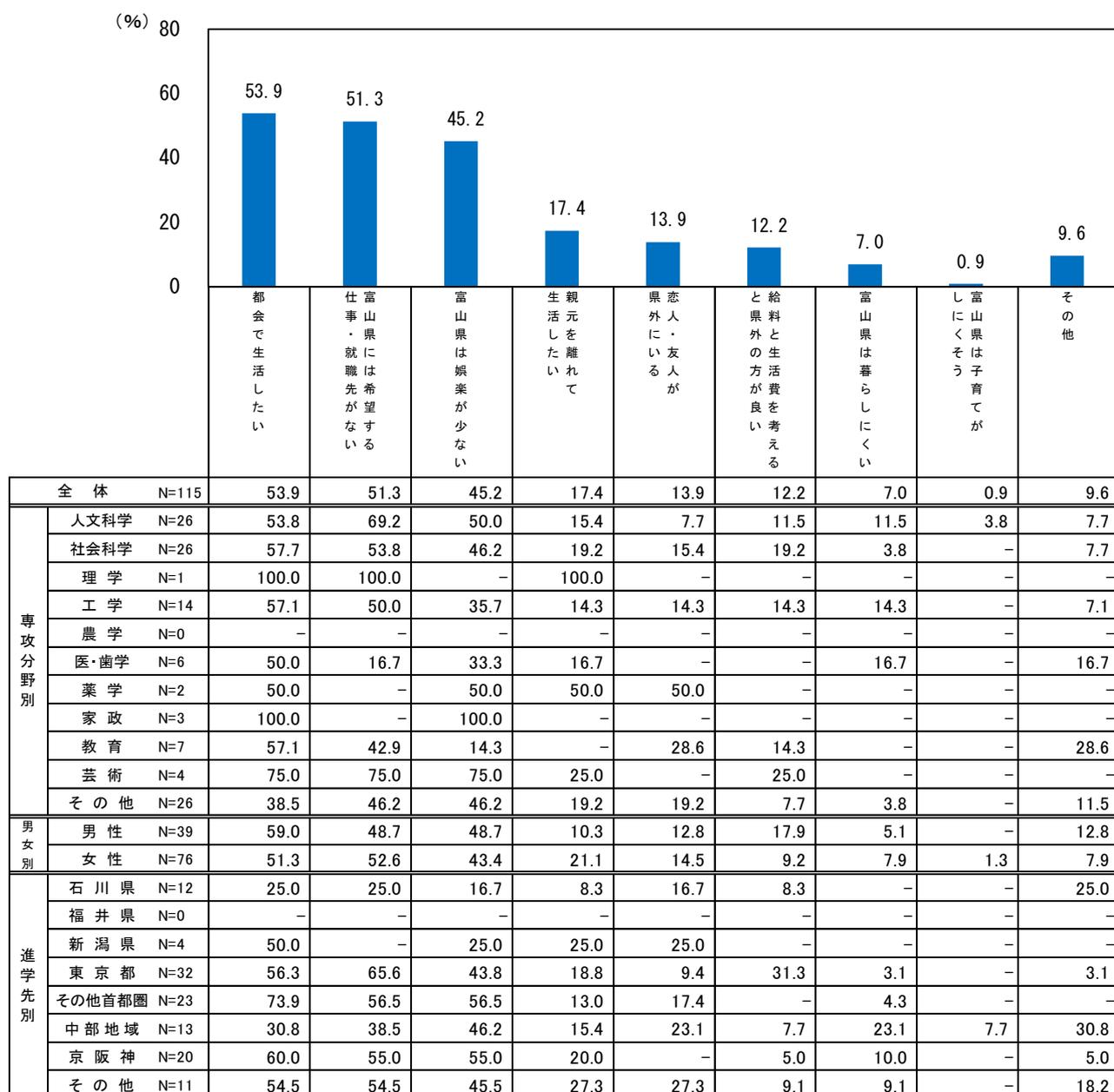
Q13. 県外での就職を希望する理由は何ですか。

県外就職希望者の5割強は、「都会で生活したい」と考えている

Q11において、「できるだけ富山県外で就職したい」、「絶対に富山県外で就職したい」と回答した115人に県外就職を希望する理由を尋ねたところ、「都会で生活したい」が53.9%と最も多く、次いで「富山県には希望する仕事・就職先がない」が51.3%、「富山県は娯楽が少ない」が45.2%となっている。

男女別にみると、女性は、「親元を離れて生活したい」が21.1%と男性に比べて10.8ポイント多くなっている。

図 2-13 県外就職を希望する理由 N=115 【複数回答】(該当するもの3つまで)



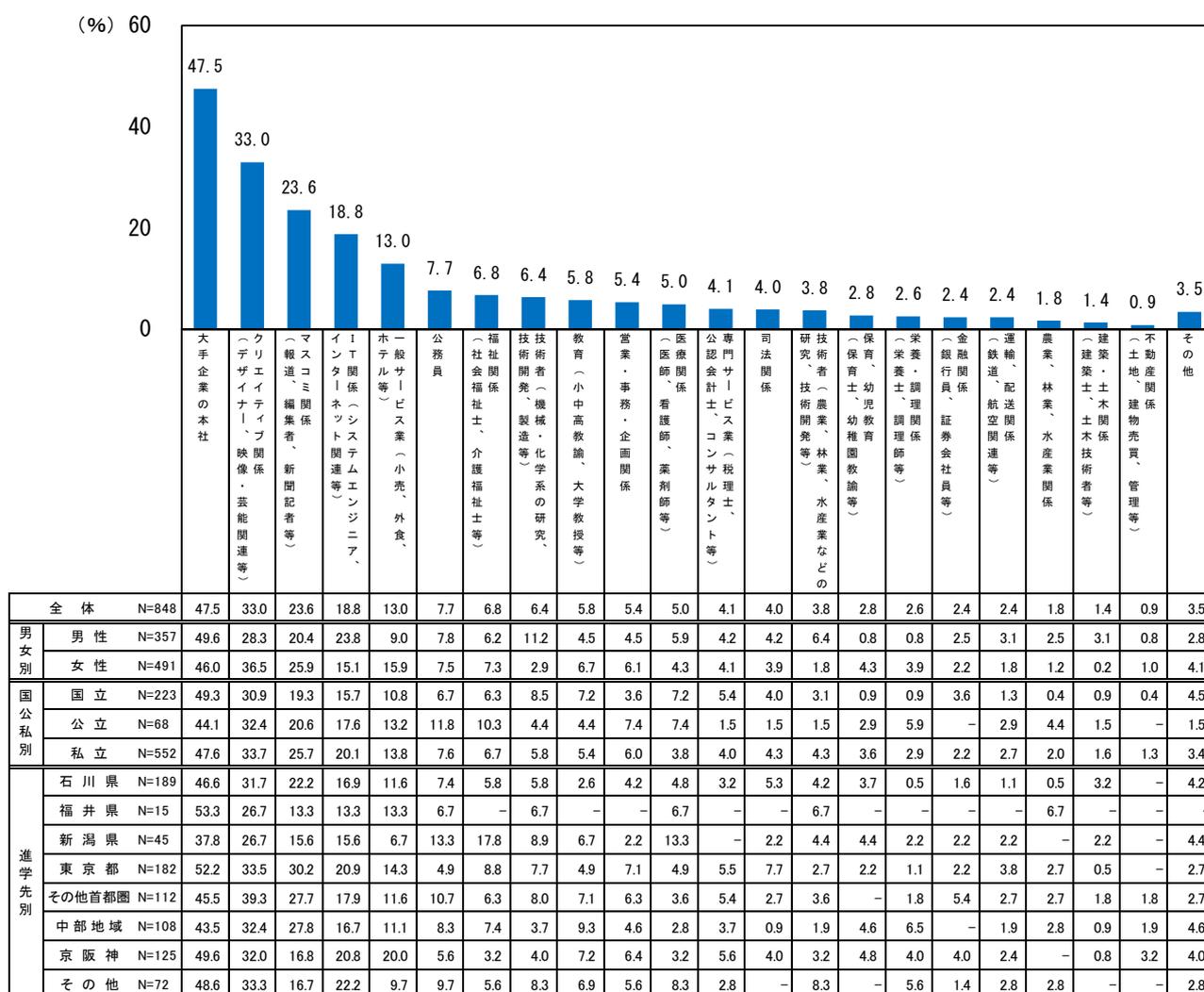
(14)富山県に不足していると思う職場

Q14. 富山県にはどのような職場が不足していると思いますか。

富山県に不足していると思う職場は、「大手企業の本社」が4割強と最も多い

富山県にはどのような職場が不足していると思うかを尋ねたところ、「大手企業の本社」が47.5%と最も多く、次いで「クリエイティブ関係(デザイナー、映像・芸能関連等)」が33.0%、「マスコミ関係(報道、編集者、新聞記者等)」が23.6%、「IT関係(システムエンジニア、インターネット関連等)」が18.8%、「一般サービス業(小売、外食、ホテル等)」が13.0%となっている。

図 2-14 富山県に不足していると思う職場 N=848 【複数回答】(該当するもの3つまで)



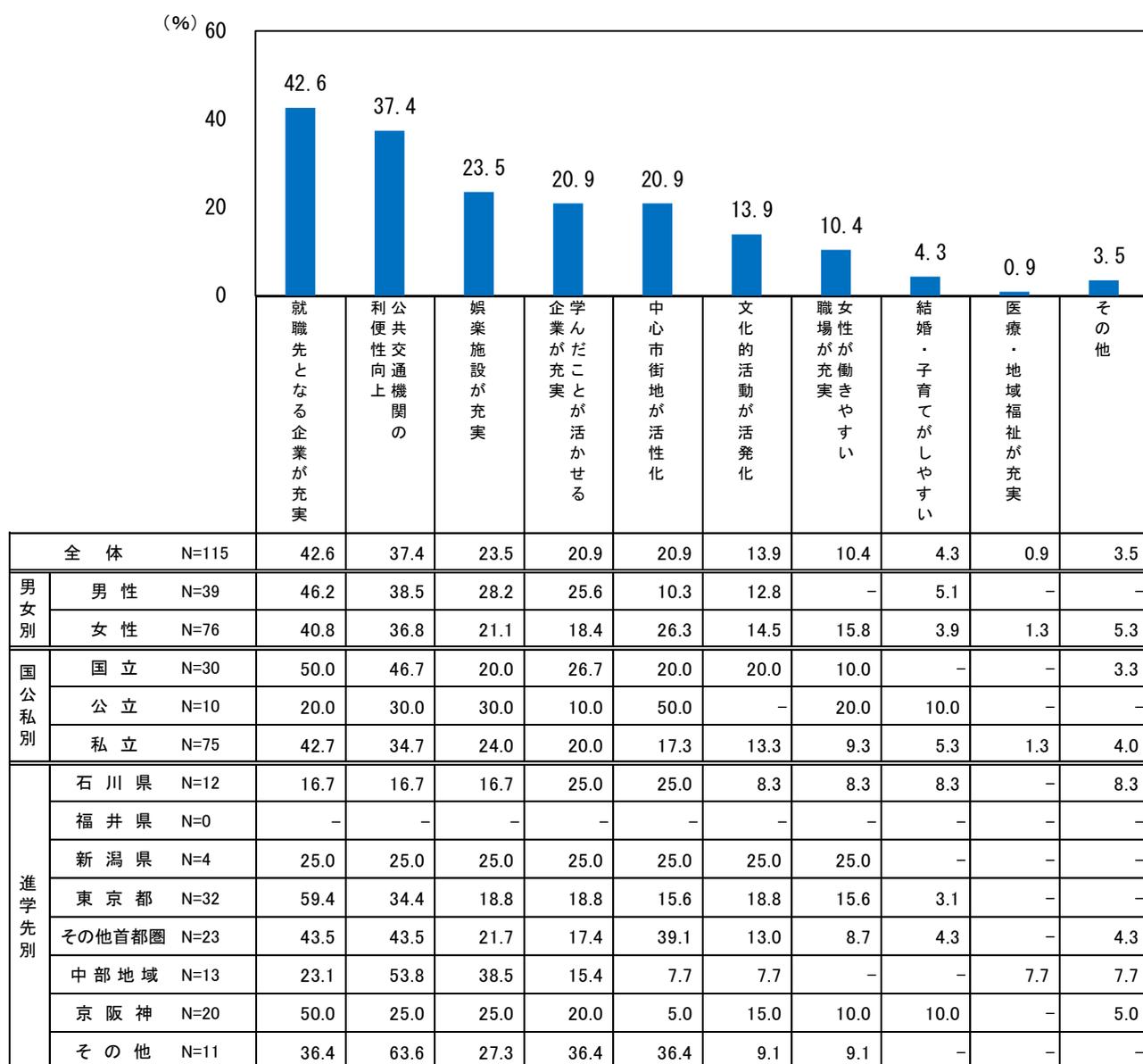
(15) 富山県がどのように変われば、富山県で就職したいと思うか(県外就職希望者)

Q15. 富山県がどのように変われば、富山県で就職したいと思いますか。

富山県に求めるものは、「就職先となる企業の充実」が4割と最も多い

Q11において、「できるだけ富山県外で就職したい」、「絶対に富山県外で就職したい」と回答した115人に富山県がどのように変われば、富山県で就職したいと思うかを尋ねたところ、「就職先となる企業が充実」が42.6%と最も多く、次いで「公共交通機関の利便性向上」が37.4%、「娯楽施設が充実」が23.5%となっている。

図2-15 富山県がどのように変われば、富山県で就職したいと思うか N=115 【複数回答】(該当するもの2つまで)



(16) 将来富山県に戻る意思

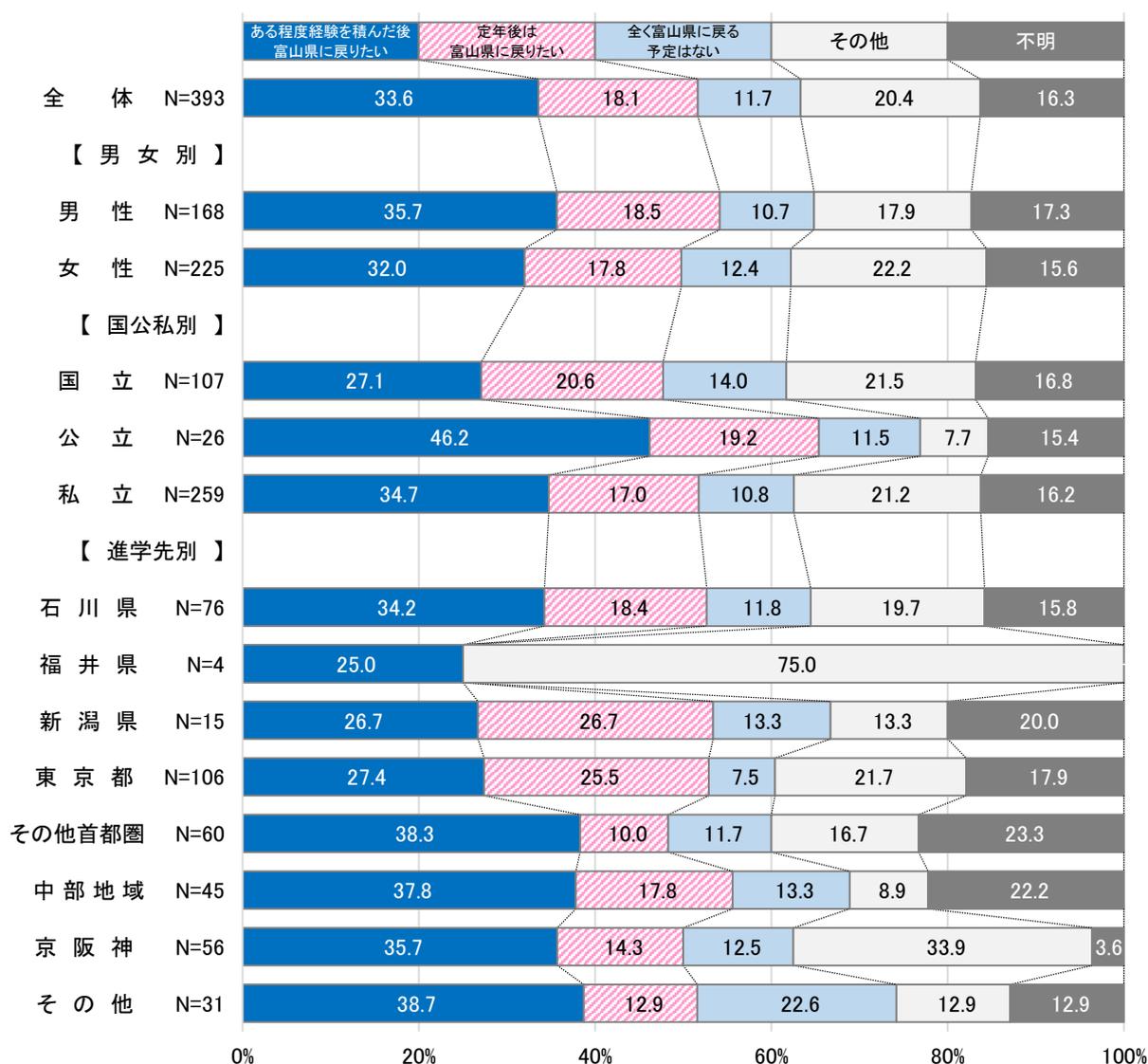
Q16. 将来的に富山県に戻る意思はありますか。

富山県での就職を希望しない学生の5割は、将来富山県に戻りたいと考えている

Q11 において、「できるだけ富山県外で就職したい」、「絶対に富山県外で就職したい」、「就職地はこだわらない」と回答した 393 人が将来、富山県へ戻る意思があるかを尋ねたところ、「ある程度経験を積んだ後富山県に戻りたい」が 33.6%、「定年後は富山県に戻りたい」が 18.1%と合わせて 51.7%となっている。

「その他」の意見としては、「まだ考えていない」や「機会があれば戻る」という旨の意見が多くみられた。

図 2-16 将来富山県に戻る意思



「Q14. 富山県にはどのような職場が不足していると思いますか。」に関する意見・要望（抜粋）

- スポーツをしたい、上を目指したい、仕事をしながら（収入を得ながら）スポーツを続けるのが、難しいのではないかと思います。
- ファッション関係の仕事があまりない。
- 資格を取っても就職が県内で出来るか不安に感じている。
- 大企業が少ないため、県外へ出た優秀な人材がそのまま都心部に残ってしまっています。
- 日本中どこにでもあるような職場しかない。都会のようにベンチャーが集まったり、富山独自の職場があったりすればいいと思う。
- 富山県にどんな会社があるのかよく知らない。
- NPO等と連携したようなおしゃれなカフェ等がない。廃材を使ったカフェとか、たまり場のような、おしゃれなところで働きたい人もいるのでは。
- 職場はYKKとか大手もあり、不足してないと思うが、その周辺の環境や通勤が不便そう。休日の娯楽も少ない。
- 都心部に比べコンクリート工場が少ない。アトリエ設計事務所も少ない。
- 大学生は富山県に何の職種があるのか詳しくないと思う。むしろ教えてほしい。
- 富山県は全国に誇れる水産業があるので、もっと水産・海洋系の仕事を増やしてほしい。
- 富山にはたくさんの魅力があるにもかかわらず、決してその良さが他県の方に知られていくとはいえず、とても残念に思っています。私は富山県出身であることを誇りに思っており、東京では友人らに富山のPRをしています。1人1人の小さなPRが大きな流れにつながると信じています。県民1人1人の富山の良さの再確認が、県の人口減少防止への大きな1歩となるのではないのでしょうか。
- 富山県は本当に良いのにそれを全国に知ってもらえる発信力に欠けているような考えを自分は持ちます。
- 現在の富山県にはやはり総じて仕事が無い印象がある。しかし、決して富山に可能性が無い、あるいは少ないわけではないと思う。「何が無いか」を考えるより「何があるか」を考えた方が有意義ではないか。
- ベンチャーとしてサービス業はあるが、少ない。異業種が集まるベンチャー企業を県が支援してほしい。

- 大手企業の本社などが富山県にあれば、働く人やその家族といったように人が集まってくるので活性化につながると思う。
- 富山県からの就職支援（インターンシップなど）を充実させて、県外に進学した学生が富山に戻ってきやすいようにしてほしい。
- 就職地はこだわらないと思っているが（やりたい仕事をするの方が優先順位が高いため）その仕事ができる企業を選ぶ際に富山県が入っていたら気になる企業になると思う。
- 女性が働きたいと思う会社を増やして欲しい。充実した会社。出版・広告等。
- 富山県がUターン促進の為に大企業の誘致をして欲しい。もの作りの技術が高い県なので、中小企業にもプラスになると思う。
- 県内は薬品（製薬）会社と工業系企業が豊富な一方、理系女子の働きやすい食品系企業や研究施設が少ないです。製薬は難関ですし、工業はまだまだ女性が飛び込みにくい印象があります。工業系企業が、製造ライン（工場）以外の分野にも女性を招き入れること、女性がよく志望する企業が増えることを望みます。そうでなければ女性は出て行ってしまいますし、女性のいない場所に子供はできません。もっと女性の働き方に多様性がほしいです。学んだ事を生かせる職場がほしい！！
- 若者が少ないのでサービス業でやりたいことが富山県でやれない。
- 新しいものに囲まれている環境ではないので、その点職場の選択肢が狭くなるなど思いました。
- 都会にある近未来的な施設なども増えると、いろいろな仕事も増えていいと思います。職関連ではないのですが、富山県はくもりの日が多く、建物も白ぼっかりだとつまらないので、施設やビルはもう少しカラフルになった方が良くと思います。使われていない建物を他の施設に建て替えるなど。富山県は大好きなので、もっと今より活気があふれたらいいなと思います！
- 近年では大学へ進学する人も増えてきているようなので、大学の選択肢の少ない富山県から人が出ていくのはあたりまえのように思う。他県の大学でその県の企業の説明会があったり、就職しやすいという話も聞いたことがある。私も富山県は嫌いではないが、大学を選んだ結果、出ていくこととなった。なので、出ていく人を減らすため、大学の選択肢を増やすべきだと思う。
- 富山県の就活情報を県外の就活生や就活に不安をもっている人に、より詳細に伝達できるシステムを作り上げてほしいです。具体的にいうと定期的にハガキなどで就活イベントの日時やいろんな企業の職業紹介などを記したりしていただきたいです。県外の富山県民にとってUターン就職のきっかけになると思うので、富山県で就職する良さを伝えるとともに、より充実した就活情報を配信していただきたいです。

- 富山で就職したいと考えている学生は私の身のまわりにも多いが、受け皿が富山にない印象。特にエリート学生の自尊心を満足させるような高給の仕事がない印象である。また、女子学生ほど富山に戻りたがっていない。富山＝製造業のイメージが強く、女子学生が働く姿をなかなか想像しにくいのかもかもしれない。
- 富山県内にどのような企業があるのか、県外に進学した人にも県内進学者と同等に知る機会があるのかが不安です。富山でのインターンシップ情報も、今のところ大学側からはもらえていないので、大学を通しての手続きが必要なものへの応募が少しためられます。
- 富山は私が今住んでいる愛知と比べたら都会とは言えません。就職という面ではやはり就職先の企業数は富山の方がかなり少ないです。そういったことを考慮して、県外で就職するのではなく、県外の大学から地元の富山に戻って就職する人を対象に、何か他の就活生に対して有利になる権利もしくは大学と地元を往復するための交通費の支援などの制度があればいいなと思います。
- 上京して富山県は自然が豊かで、人も少なくのんびりとした素晴らしい県だと感じました。しかし、一方で東京では、人が多い分たくさんの人と知り合い、交流することで富山県では経験できないマナーや知識などを持つ人が多いと感じました。そして、そういった常識を知らないことを恥ずかしく思うことが稀にあります。